

※ 現時点でのイメージであり、本日の検討状況を踏まえ、報告資料として整理します。

学校配置の方向性について

第1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点

- こどもの数が減少している中、全てのこどもたちに一定水準を満たした教育を提供することによるウェルビーイングの実現と、誰一人取り残さないきめ細かな教育の提供
- こどもたちがこれからの時代に求められる力を身に付け、可能性及び能力を最大限に伸長することができる教育環境の提供

1 高等学校教育を受ける機会の確保

- 全ての生徒が夢や志に応じて高校を選択できる環境づくり
- 地域と一体となった人財育成が進められてきたことを踏まえた学校配置
- 地理的要因や家庭環境等により高校進学に支障が生じないような通学環境への配慮

2 充実した教育環境の整備

- 高校に求められる教育活動の更なる充実に向けた教育環境の提供
- 様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズへの対応
- 高校間連携や地域等との連携の更なる推進による高校教育の質の確保

第2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

- 「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点を考慮し、高校を取り巻く環境の変化等を見据えながら、魅力ある高校づくりに向け中・長期的な視点で県立学校全体の在り方について検討
- 県立学校全体の学校配置の在り方の検討に当たっては、全日制・定時制・通信制課程の学校配置の方向性に加え、各校の特色を踏まえたICTの活用や多様な主体との連携・協働の効果的な方策を検討

1 全日制課程

(1) 6地区ごとの学校配置

- 教育の機会確保や通学環境等を考慮し、6地区ごとの学校配置の継続・見直しについて検討

(2) 学校規模

- 教育の質の確保、学校や地域等の実情、規模別の課題、こどもの数の減少等を考慮し、学校規模の標準の在り方を検討
- 重点校・拠点校による高校間連携の状況を踏まえながら、今後のこどもの数の推移や立地場所、学校や地域等の実情を考慮し、重点校・拠点校の学校規模の標準の在り方を検討

(3) 小規模校（地域校）の配置

- 小規模校の現状を踏まえながら、入学状況や中学校卒業予定者数の推移、他校への影響、多様な生徒との関わりの中での学び等を考慮し、小規模校の配置の在り方を検討
- 教育の機会確保や通学環境、教育の質の確保等を考慮し、地域校制度及び同制度における募集停止等の基準の在り方を検討
- 小規模校（地域校）の配置に当たっては、多様な主体との連携・協働やICTの効果的な活用等により、充実した教育環境を提供することが必要

2 定時制課程・通信制課程

- 様々な事情を抱えた生徒等に対応するため、現状の配置を継続。なお、継続に当たっては、午前部、午後部、夜間部それぞれの入学状況等を踏まえ、募集人員の見直しについて検討。
- 入学者数の増加傾向を踏まえ、定時制・通信制課程の配置の拡充について検討。なお、拡充に当たっては、教員配置の充実や専門スタッフによる支援体制の強化が必要であり、また、全日制課程と合わせた学校配置なども考えられる。

第3 学校配置と合わせて検討すべき事項

- 「魅力ある高校づくりに向けた学校配置」の検討に当たっては、本県の産業構造等を踏まえ、生徒の進路志望の多様化等を見据えた再編の方法、学級編制の在り方、生徒の通学手段の確保・通学支援等について検討
- 魅力ある高校づくりに向けた検討や具体的な取組を進めるに当たっては、地域等から理解を得られるよう取り組むとともに、市町村等から協力を得ながら人的・予算的な対応についても考慮

1 再編の方法等

- 統合により期待される教育的効果等を踏まえ、学科の統合や異なる学科の高校を統合。統合に当たっては、特色ある教育活動の引継ぎ等についても考慮
- 新たな時代を見据えた学びを提供できるような学科の改編・新設や企業との連携の強化、中高一貫教育の導入など、教育環境の充実に向けた統合以外の方策を検討

2 学級編制

- きめ細かな指導を行うため、現状よりも少ない人数での学級編制としたり、他校へ拡充したりするなど、少人数学級編制を推進。なお、推進に当たっては、各校の特色に応じた学級編制や、学校規模と一体となった学級編制の検討が必要であるほか、全校に一律ではなく段階的に実施することも検討

3 通学手段の確保・通学支援

- 市町村や交通事業者等の協力を得ながら、公共交通機関の増便やダイヤの改正、スクールバスの運行や寮の整備、通学費や下宿代等の補助などの対応を検討。対応に当たっては、地域公共交通への影響を考慮

4 地域等から理解と協力を得る取組

- 実施計画の策定等についてこれまでと同様の方法で実施。
- これまでの地域等からの意見を真摯に受け止め、実施計画の策定に向け、地域の理解を得られるようなスケジュールで意見交換を実施
- 統合をする場合は、実施計画の公表から統合に至るまで、一貫性を持って進めることが必要